

老朽化した住吉橋（三俣川）



丹政クラブ 川勝 眞一 議員

新477号道路事業計画は安全性に欠ける

府に要望し、協議を進める **市長**

問 一般国道477号西田大敷道路事業で、未着工部分の西田工区の地元説明会、また、東区長会への説明が行われた。平成17年度の説明会では、現状道路が1・5メートル上がるとしていたが、三俣川が砂防河川と分り、さらに、50センチ上がり、2メートルになるとのこと。新国道との取合部分の市道の勾配がきつくなり、安全性に欠けると疑問視されている。今、右岸側は小学生の通

学路、左岸側は中学生が自転車通学をしている。計画橋梁の下流には生活道路・通学路の木製の市道住吉橋があり老朽化し危険である。そこで三俣川の側面にトレンチを打ち、一部の段差工を利用して河床を下げる方法で、道路を下げる検討を願う。地元市民は道路が上がることに納得がいかない。この点について伺う。

市長 三俣川の橋梁、道路計画について、関係地区の役員・区長に府より説明され、既設道路との交差点付近の安全確保の件が数多く寄せられたことは、認識の中で、川の河床を下げることに付いて、地域住民の皆様方のご意見・要望をふまえ交通安全確保を第一として、府に対して要望し、協議を進めて行く考えである。

問 八木バイオエコロジーセンターは豊かな自然を守り、安全で美しい快適な生活環境づくりを進めるため、家畜糞尿等再利用施設として開始した。センターの役割と機能について、今、問題になっている点、今後の環境施策での指導と計画・バイオマス活用について伺う。

市長 最大の課題は施設運営のランニングコストがかかること。バイオマスの活用で、地球に優しいまちづくり、農林業の振興、まちの活性化を図っていきたい。

水質悪化が進む通天湖



日本共産党・住民協働市会議員団 大西 一三 議員

るり溪に清流を取り戻す府・市の対策が必要

環境を監視し保全に努力 **市長**

問 るり溪溪流の水質悪化が進行している。現状をどのように認識しているか。改善の取り組みは。 **市長** 著しく汚染が進んでいるとは認識していない。市の観光振興にとって「るり溪」の重要性は大きなものがある。 **問** 洪水被害がないよう台風シーズンには通天湖の湖水を抜いておく必要があると考えるが。 **市長** 地元区と十分調整をした上で管理し、防災上問題のない対応をす

る。 **問** るり溪通天湖湖底には泥の滞留が相当ある。浚渫が必要と考えるが。 **市長** 一部堆積している。地元区と協議し対応する。 **問** 定点における定期的な河川水質の監視・管理が必要だと考えるが。 **市長** 通天湖と法京地内で測定している。京都府とも連携して進めている。 **問** 「女性の館」助成金は返還されると聞かすが市

長の見解は。 **市長** 返還すると明言したとは認識していない。 **問** 市財政厳しい折である、未執行の「補助金」は返還請求をするべきである。 **市長** 議会の議決等必要な手続きを経ての支出である。裁判の結果を見て対応していく。 **問** 後期高齢者医療制度導入で、高齢者の負担が増し、医療サービスは悪くなる。見直しを求めるときと考えるが。

市長 高齢者の医療費が年々増加傾向にあり、国民皆保険を維持するため創設されたもの。独立した75歳以上の高齢者の保険である。一層の支援を図る必要がある。 **問** 年金からの天引き、滞納者に対する保険証の取り上げ措置などは見直すよう国に求めるべきと考えるが。 **市長** 公平負担を確保する観点からやむを得ない。

佐々木市長にまちづくりを問う

一般質問

9月定例会では、16人の議員が一般質問を行いました。各議員の質問と理事者の答弁の概要は次のとおりです。（質問順に掲載）



活線クラブ 松尾 武治 議員

求められる副市長の職能

担当事務規則により担当している **市長**

問 自治法の改正で、副市長が誕生した。旧法と職能が大きく変わり、市長の命を受け「政策及び企画」の文言が加えられた。自治法の狙いは、市長の事務量の増大する現状を踏まえ、市長を支えるトップマネージメント機能を副市長に一元化することにあるが、市長は、副市長の職能をどのように考え市政運営にあたらせようとしているのか伺う。

市長 法の改正で、副市長の職務は、市長の補佐のみならず、長の命を受けて、政策及び企画をつかさどることが可能となったが、現時点では、副市長の担当事務規則により、事務を担当している。 **問** 副市長の権限の一部についても、内容を十分検討した上で可能性を探っていききたい。

市長 本町地区土地区画整理事業は、平成14年3月に都市計画決定された南丹市直営事業と聞いてい

るが、区画整理事業の目的が見えてこない。 **市長** 本町地区にある3つの金融機関、園部町商工会等が連携し、用地を立体的に活用するなど効率の良い活性化策を核とした、事業を進める必要があるにも関わらず、「まちの活性化策」が示されずに事業が進められた。街路事業による補償が、特定事業者の立地改善と廃業の引き金になり、賑わいを取り戻す事業に逆行している。



活線クラブ 松尾 武治 議員

殿田・神吉・越畑断層と防災組織は

府と協調し総合防災訓練を検討 **市長**

問 去る8月7日の新聞紙上に、京都府地震被害想定調査委員会の報告として、殿田・神吉・越畑断層が原因とする地震発生時の被害想定が掲載された。最大震度7、死者3400人、全壊家屋7万7600棟に及ぶとの衝撃的な報道は住民に大きな不安を与えた。府の事前報告はあったか。災害発生時における救助活動など、地域防災組織の位置づけは重要であ

る。現在ある組織の拡充整備が必要と考えるかどうか。報告では活断層近くに日吉ダムがある。地震によるダムの安全性についてどう認識しているか問う。 **市長** 府の報告は私にとっても衝撃的だった。報道の日まで府からの事前の報告はなかった。 **市長** 今後は調査結果をさらに詳細に整理し報告することであり、情報伝達など府と協調

をしていくとともに、総合防災訓練の実施も検討する。 **市長** また、災害時における地域防災組織の役割は大変重要と認識しており、財政面、組織面からも体制を整えていく。 **市長** 日吉ダムは、平成15年に国土交通省から耐震性（安全性）についての確認がされている。大野ダムも問題はない。 **問** 今、南丹市の中心部では都市計画による「中

心市街地活性化計画事業」が課題もあるもの、着実に進められている。一方周辺部では少子高齢化による小規模集落が多く、その格差への不満と、支所機能のあり方への閉塞感が多い。地域振興をどう取り組むか。 **市長** 地域の拠点づくりと、暮らしの利便性、特色を生かした賑わいを創設していく。



南風会 井尻 治 議員